

子どもの本だな 45

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### 沖釣り漁師のバート・ダウじいさん

ローバート・マックロスキー 作

わたなべ しげお 訳 (童話館出版)

ある天気の良い日、漁師のバート・ダウじいさんは<潮まかせ>号で釣りに出ました。ところが針にひっかけたのは大きなクジラ。しっぽから釣り針をはずし傷にバンソウコウを貼っている間に突風が吹き始め舟は今にも沈みそうに。じいさんはクジラに頼んで舟ごとクジラの胃袋に避難させてもらいました。しばらくしてクジラに大きなしゃっくりをさせ飛び出したところは、クジラの群れのまんまん中でした。

豊かな色彩とユーモラスな絵で繰り広げられる、クジラとじいさんのやりとりはダイナミックで小気味よく、思いがけない展開にハラハラしながらも大きな満足を味わいます。読んでもらえば5歳から楽しめます。(西村)

### 銀のいす

C. S.ルイス 作 瀬田 貞二 訳 (岩波書店)

いじめっ子に追われていたジルが、同級生のユースチスと一緒に、学校の石塀のドアをぬけ出してみると、そこは目もくらむ高さの崖の端でした。ジルは、引き戻そうとしてくれたユースチスを思わず突き落としてしまいました。泣いていたジルに、あらゆる獣の王であるライオンのアスランが、行方不明になっているナルニア国の王子を探すように命じました。手がかりとなる四つのしるべを教えられ、ジルはライオンの息に吹き飛ばされて、ナルニアの港に降り立ちました。ジルとユースチスは、沼人の泥足にがえもんを道案内に、飢えと寒さに苦しみながら荒野を越えて北方にある巨人の都の跡を探します。途中、緑の衣の貴婦人のすすめで訪れた巨人の館で秋祭りのご馳走にされる寸前、逃げこんだ地下の国で魔女に捕らわれていた王子を見つけました。

悲壮な口調とは裏腹に冷静沈着な沼人に助けられ、ジルとユースチスはアスランとの約束を果たします。ナルニア国ものがたり4巻目。(片木)

7月	8月	7・8月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	10日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	17日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	24日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

#### 一日図書館員を募集!

日時：7月23日(日)  
9時15分~18時  
内容：本の貸出、分類など  
対象：小学6年生~高校生  
定員：3名  
申込期間：7月1日~20日  
※本人来館の上、窓口で申し込んでください。

#### 13歳からの読書会

『ロビンソン・クルーソー』を読んで  
8月5日(土) 10時30分~12時  
場所：図書館読書会室  
対象：中学生以上(要申込)

# 『語り継ぐハンセン病』

瀬戸内3園から

山陽新聞社 編

山陽新聞出版社 271頁 2017年3月刊 1,800円 (請求記号) 494.8

瀬戸内海に浮かぶ長島と大島に、長島愛生園、邑久光明園、大島青松園の3つの国立ハンセン病療養所がある。そこに刻まれたハンセン病の長い歴史は、想像を絶するものだった。1907年(明治40)、日本初のハンセン病対策法が制定された。1930年(昭和5)、ハンセン病根絶を目的とした新たな「癩予防法」成立と共に国立療養所、長島愛生園が開園し、ハンセン病患者の絶対隔離が本格的に始まった。各地で患者を徹底的に排除する「無らい県運動」もあり、定員400人の園に2000人以上が収容され、他園も常に超過状態だった。当時、ハンセン病は「らい病」と呼ばれ、発症するほとんどが10代の子供だった。入所者の男性(90)は、14歳の時に発症し父に連れられ島にきた。本名か偽名どちらにするかと聞かれ、家族に迷惑をかけまいと偽名を選び、園内ではか使えないブリキのお金を渡された。3ヶ月したら治ると言われたが、園内には火葬場や納骨堂があり、信仰する宗教を聞かれた理由が自分の葬儀の時のためだと気付き絶望した。その後、園内で出会った女性と結婚した時は当たり前のように断種手術をした。皆している事、拒否など考えもしなかった。

1947年(昭和22)、特効薬プロミンの登場で終わると思われた強制隔離は、1996年(平成8)に「らい予防法」が廃止されるまで90年間継続された。約1世紀に渡る隔離政策で刷り込まれたハンセン病患者に対する偏見や差別は根深く、現入所者の半数以上の方が家族への差別を恐れ、偽名のまま人生を終えようとしている。さらに施設の老朽化、当事者たちの高齢化、そして記憶の風化。ハンセン病問題は今現在も続いている。

本書は山陽新聞に連載されたものをまとめたもの。ハンセン病の歴史が当事者たちの証言を元に丹念に調べられている。本書を読み、ハンセン症を全く知らなかったことを思い知らされた。多くの詩集を発表し、高見順賞を受賞した塔和子さんや、視覚障害者たちのハーモニカバンドなど、病に負けず強く生きる人たちの姿に心打たれる。生きるとは何か、人権とは何かを考えさせられる。

(池之上)

## 7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	X	5	6	7	8
9	10	X	12	13	14	15
16	17	X	X	20	21	22
23	24	X	26	27	28	29
30	31					

## 8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		X	2	3	4	5
6	7	X	9	10	11	X
13	14	X	16	17	18	19
20	21	X	23	24	25	26
27	28	X	30	31		

- \* カレンダーのX印は休館日。
- \*    は館内整理日。返却のみ受けつけます(10:00~17:00)
- \* 開館時間は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

## やさしい考古学講座

### 「縄文の人々の暮らし」

「東南遺跡」はじめ県内の代表的な発掘成果から、縄文時代の人々の暮らしを学びます。

講師：深井明比古さん

(兵庫県立考古博物館)

日時：8月26日(土)

14時~16時

会場：あすかホール

ミニシアター

対象：小学生以上大人まで

3年生以下は保護者同伴

定員：60名(要申込)

## 地下水

夏休みが近づいてきた。図書館に届くパンフレット類にも、夏休みに向けて楽しそうなイベントがたくさん載っている。理科実験の好きな息子と相談して、実験教室に申し込むことにした。他にも、大人でも楽しめそうなクラフト体験や料理教室もあり、見ているだけでワクワクしてくる。

近隣の図書館長と話していて、「ワクワク感が大事」という言葉に深く共感した。その図書館では、来館者にワクワクしてもらおう工夫を常に考えているようだ。

太子の図書館でも、児童室にダンボールの恐竜や動物が次々と現れているのに気づかれただろうか？ 4人の臨時職員の作だが、何を作るかの選択から、色の付け方や仕上げの工夫など、それぞれに個性が出ていておもしろい。「新しいのが増えるか、ワクワクする。来るのが楽しみになる」とは某4年生男子の言葉。図書館で恐竜たちに出会い、夏休みの工作の参考にすることもよし、恐竜の図鑑や物語を借りるもよし。そして館内をゆっくりと見て回り、お気に入りの本を見つけてくれたら嬉しい。

(池田)

